

「NHK新会長を応援する」

NHK 榑井勝人新会長が、二〇一四年一月二五日に就任記者会見を行った。そこでの発言が、物議を醸している。一部の政党やマスコミは、新会長の責任を問う声を上げているが、発言内容を吟味すると、新会長の言っていることは至って正論である。

記者会見での発言内容は、NHKの経営、番組についての基本方針から、番組内容、領土問題、慰安婦問題などに至るまで、NHKの会長としては、かなり踏み込んだものであった。具体的には、①NHKの経営、番組制作については、（放送の公平・公正を旨とする）放送法を遵守する。②番組内容については、現在の番組は民放化しているようであり、検討する必要がある。③領土問題は、海外向けの国際放送で明確に日本の立場を主張する。④慰安婦問題は、日韓基本条約で国際的に解決済みであるのに、それを蒸し返している韓国の対応はおかしい。その他には、首相の靖国参拝について、現状の報道のありかたは疑問であるなど、日本の公共放送として、しごく当たり前でもっともなことばかりである。

本人はその後、従軍慰安婦問題などについて、「就任の記者会見の場で、私的な考えを発言したことは間違いだった」と恐縮しているが、記者側の誘導尋問もどきの質問に対し、個人的な意見と前置きをして自説を開陳したものであり、過度に萎縮す

る必要はない。今後正々と職務を推進してもらいたいものだ。

筆者に言わせれば、むしろ、新会長の発言に対する、会見の場での報道機関の質問、その後のテレビや新聞報道のほうが、相も変わらず定型的、硬直的であった。まず、会見での記者の質問は、韓国や中国の言いたい放題を鵜呑みにしたようなものが多かった。とりわけ従軍慰安婦問題についての質問などは、諸外国における戦時慰安婦の実情について無知で、それをごまかしながら、低次元の揚げ足取りに終始した。記者の勉強不足が丸出しである。

また、テレビ朝日やTBSの報道は、いつものことだが、反日的で、親韓国・中国の色彩が露骨であった。新聞の論調でも、朝日新聞は相変わらず、売国的スタンスに立って新会長を批判した。ただしその一方では、産経新聞のように、新会長に対して、偏向しているNHKの是正を期待する声もある。政党では、民主党を中心に野党が責任追及の声をあげているが、政権担当能力が全く欠如し、無益有害で日本を破壊してしまった政党が、「責任問題」など口にするのは、笑止の沙汰である。

既に別稿（「軸がおかしいNHK」）でも述べたように、NHKは軸のズレが顕著であると断じているのは、筆者だけではない。現状の日本のマスコミが社会に与えている影響、特に悪影響について、多少なりとも思いを致したことのある人達の間では、ごく一般的な意見である。

例えば、中国の深刻で様々な出来事について、NHKが時に

隔靴搔痒の報道しかないのは、自局番組（例えば「シルクロード」など）の取材や放映で、中国に借りがあるためだ、という見方さえある。さらに、NHKの問題点に関して、筆者が経験したことを言えば、「みなさまの声にお応えします」という、NHKの視聴者向け対応欄に、次のような筆者の「声」を送ったことがある（二〇一〇年九月二十九日付）。原文のまま記すと次の通りである。

BS1、二〇一〇年九月二十七日、午後五〇〇〇五二四ごろの解説番組の件です。解説をした加藤青延氏の解説スタンスに疑問があります。尖閣列島がわが国の固有の領土である旨をはつきりと述べない（少なくとも明確に述べてはいなかった）一方で、「中国の立場からすれば、中国の領土である」旨を数回述べていました。中国の理不尽が明白な今回の事件の解説として、公共放送としてのバランスを失した不適切なものでした。

翌二八日の民放の番組で、元NHKの池上彰氏がこの事件について、極めて的確、明快に解説されていましたので、少しは勉強されたらいかがでしょうか。なお、加藤氏の解説は、いかにも原稿丸読みのスタイルで、この点でも視聴者の聴く気を削ぐものであったことを申し添えておきます。

以上の通りである。しかしこの「声」に対して、NHKからは、「お応えします」というタイトルとは裏腹に、いまだ回答が

無いままである。

現状のNHKは、大胆に改革のメスを入れる必要がある。そのためにも経営トップについては、NHKの生え抜きを排除し、まともな常識やバランス感覚を有する民間企業などの出身者が務めるべきである。新会長はこの問題で辞任する必要はない。そして、軸足が左にずれているNHKを、文字通り公正、中立でまともな公共放送へと是正していくことを期待したい。

（二〇一四年二月一日）